

・今回の個別フォローでは、チーム承認基準の「踏み込み」について深めました。

締切まであと1ヶ月ということもあり、数打ちや当たるしかないのかなと練習していたものの、手ごたえを感じられずにいました。

「踏み込む」ことは「苦言を呈する」に近いイメージ(言いにくいことを言うこと)という先入観がありました。本人が気づいていない良い点に気付いて伝えるという意味合いもあるという気付きを頂きました。

最初に、陽子さんから「最初から丸い物を選んで持っていてから、切れ味が落ちるんじゃない」という指摘がありました。

指摘することが怖いから、持っているものを変えてしまっている、ということです。

表面を優しく撫でていただけでは、相手には「良いことを伝えてくれた」という思いも与えられないという気付きを頂きました。

チームでの直近の上手いかなかったやり取りについても、スポーツの例を出して具体的なアドバイスを頂きました。

上手いキャッチボールをするためには、自分が確実に投げられることも大事ですが、相手にいい場所に投げてもらおうことを求めることも大事だと気付きを頂きました。

スライディングキャッチのような派手な技はナイスプレーと受け取られがちで、淡々とプレーすることは目立たないけれど、淡々とやるためには事前の予測や日頃の練習が欠かせ

ない訳で、毎回ギリギリのスライディングキャッチで間に合わせることはダメだということです。

相手に自分の聞きたいことを伝えるためには明確なキーワードを選ぶことも意識して練習していく必要があることも改めて伝えて頂きました。

自分の着眼点に自信を持って、キャッチボールのずれを互いに言葉にし合って修正し合うことが、互いの手ごたえや気付きを与え合えたというやり取りにつながるのだと実感できました。また1ヶ月頑張ります。

(A.S 40代女性 北海道)